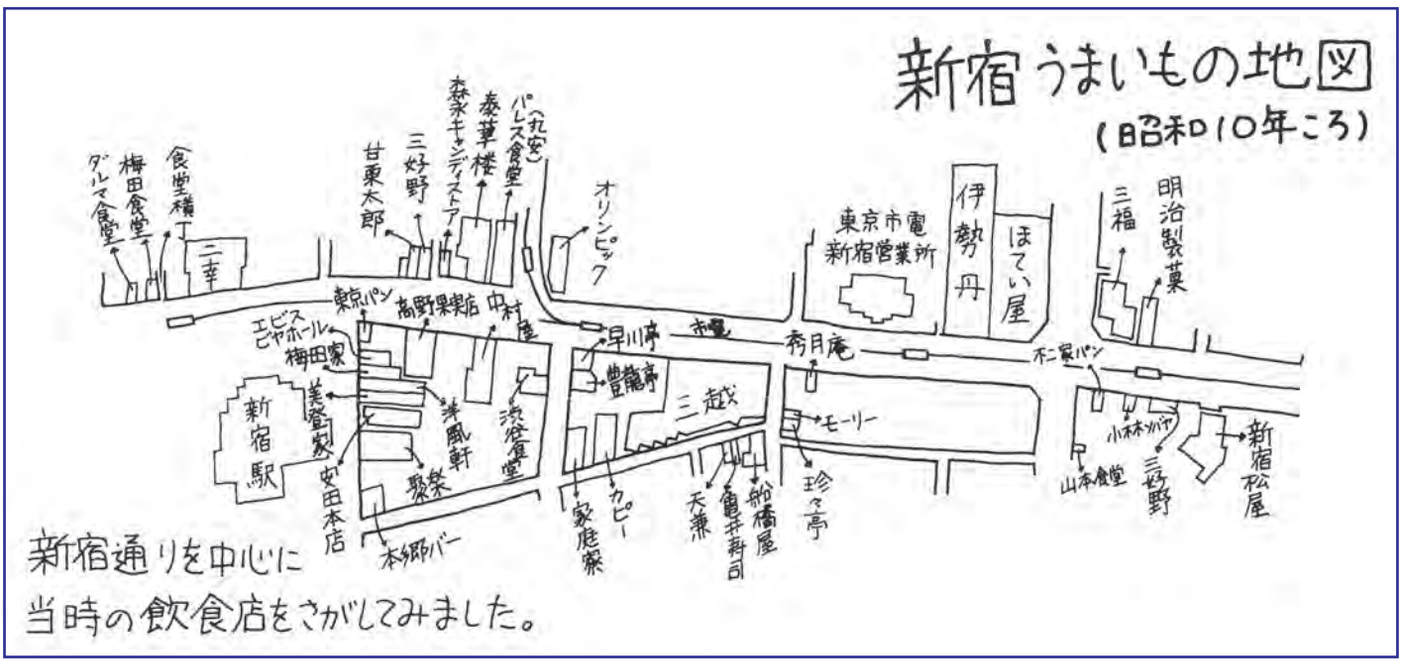
新宿うまいもの食べある記

昭和初期の新宿は今と同じように多くの飲食店があり、たくさんの人で賑わっていました。家族連れで食事に行くことがみんなの大きな楽しみのひとつでした。ここでは当時の新宿にあった飲食店のいくつかを紹介します。



■新宿のデパート第１号・ほてい屋（5階食堂）：関東大震災のすぐあと、新宿の将来性に目をつけ、大正 15 年（1926）1 月いちはやくデパートを作ったのがほてい屋です。入り口にたくさんの食べ物の見本がおかれ、また、麹町、牛込から下町一帯までが一望のもとに見渡せたといわれます。**■ターミナルビルの草分け、新宿松屋（松屋食堂）**：昭和 4 年（1929）、甲州街道を通って追分まで来ていた京王電車の新宿追分駅の上に、新宿松屋が開店しました。東京でのターミナルデパートの草分けです。地下に松屋食堂がありました。一時閉店したこともありますが、後には京王パラダイスになり、喫茶、食堂、ビアホール等がありました。**■「新宿へ、三越へ！」三越新宿支店（7階大食堂）**：昭和 5 年（1930）、新宿駅前の分店（後に二幸、現在のアルタ）から 現在地へ新築移転しました。7 階の食堂からの眺めは格別で、西口の淀橋浄水場やガスタンク、さらには富士山、伊豆半島の山並みまで見えたといいます。**■スケートリンクもあった伊勢丹デパート（6 階大食堂）**：伊勢丹の大食堂は 6 階にありました。開店記念の絵はがきでは、正面玄関や屋上庭園などと共にこの大食堂の模様が紹介されています。ほてい屋の建物にそっくりな建物をほてい屋とぴったりくっつけて建てて、昭和 8 年に開店、その後にほてい屋を合併しました。**■「うまいものは何でも二幸」**：「山の幸、海の幸」にちなんで名付けられた総合食料品店です。昭和 6 年（1931）には自動販売機を使った「オートマットの食堂」も誕生しました。**■「甘栗太郎」**：店先に、どんな仕掛けかはわかりませんが、左手に甘栗紙袋、右手に大きな鐘を持って、しかもそれを上下に動かすというからくり人形がおいてありました。今の新宿通りに面していたそうです。**■「味のデパート三福」**：ほてい屋向かい、「味のデパート」として親しまれました。4 階に映画館光音座がありました。光音座はダンスホールを改築して造られました。**■駅前の東京パン**：1 階がパン売り場、2・3 階が食堂でした。早朝から営業 しており、通勤のサラリーマンがよく利用していました。ホットドッグにたっぷりのマスタードを付けたのが人気。**■食堂デパート聚楽**：駅のすぐ前にありました。白れんがづくりの 5 階建で、地 下から 5 階まですべてが食堂でした。コーヒーは 10 銭、ランチは 35 銭と 50 銭の 2 つがありました。**■「しぶしょく」渋谷食堂**：手軽な食堂の「しぶしょく」は東京中にありました。**■早川亭のしゅうまい**：三越の角にあった店。新宿名物のひとつでした。平成時代初めまで営業していました。**■家族連れで賑わう家庭寮**：「お酒のない明朗な均一お食堂」というのがキャッチフ レーズでした。**■モーリーのうなまん**：チャーハンのように丸く盛り上がったうなぎ飯が名物でした。**■山本食堂**：追分の交差点の近くにあった小さな食堂です。表に「牛めし」というのれんをかかげ、今でいうもつ煮込みを御飯のうえにかけた牛めしのほか、野菜の煮付けや焼き魚などがメニューです。年中無休で営業していました。新宿にはこんな食堂が数多くありました。

このほか、当時の新宿には、オリンピック、パレス食堂、甘い物の三好野、“メイカ” こと明治製菓喫茶部、森永キャンディー、不二家などがあり、学生や家族づれで賑わっていました。